

日本薬学会の更なる発展を目指して

To Open a New Era of the Pharmaceutical Society of Japan

太田 茂 (Shigeru OHTA)

広島大学大学院医歯薬保健学研究院 (Graduate School of Biomedical and Health Sciences, Hiroshima University)

日本薬学会は我が国では最も古い学会の一つとして1880年に発足し、以来薬学領域における中核的学術団体としての位置を保ち続けています。このように素晴らしい実績のある学会の更なる発展のために微力ながら精一杯貢献致す所存ですので会員の皆様方のご支援を心よりお願い申し上げます。

今後、日本薬学会を更に発展させるための課題として以下に数点挙げさせていただきます。

1) 次世代を担う会員に対する支援

伝統ある日本薬学会を次世代において更に輝かしい存在とするためには是非必要なことであると思えます。現在、柴崎前会頭のリーダーシップのもと「長井記念薬学研究奨励事業」がスタートしております。本事業は薬学系の博士課程および博士後期課程の学生に対する支援です。本年度も継続して支援を行い、博士を取得して研究者として活躍する若手の育成いたします。次に若手研究者についてですが、各部会においても若手会員活性化に対する取り組みはなされておりますが、将来の薬学会を担って頂く世代のニーズを反映させた学会運営を行うために若手会員の意見を取り入れるしくみを構築して行こうと考えております。

2) 学術誌の活性化

日本薬学会が発刊している学術誌は Chem. Pharm. Bull.、Bio. Pharm. Bull. 薬学雑誌の三誌ですが、最近投稿数の減少が認められております。この三誌の活性化は重要な課題と認識しております。会員の皆様に活用される学会誌として更に魅力あるものとするために具体的な目標を掲げて努力して行きたいと思えます。

3) 学会の国際化

今年の年会から理事会企画として国際シンポジウムを行っておりますが、今後の年会においても英語のみで行うシンポジウムを徐々に増やしていき海外からの参加者にも開かれた年会にしていければと考えております。

4) 会員増強

会員数については30歳代の企業会員の減少が認められています。当然のことですが日本薬学会は大学、研究機関、医療機関、企業、行政等幅広い会員によって支えられております。その中で企業の方々に対しても学会の有用性を具体的に示すことが出来るようアピールして参る所存です。